

平成24年度 第2回 千葉県スポーツ推進審議会 会議録の概要

開催日 平成25年3月5日(火)
時 間 15時～16時30分
会 場 千葉県庁中庁舎9階 企画管理部会議室
千葉県中央区市場町1番1号

<出席委員> (敬称略50音順)

荒川 昇 金澤 篤志 榊原 佑子 高橋 直子 浪越 一喜 畑佐耕一郎
花岡 伸和

<出席事務局職員>

千葉県教育委員会	教 育 長	瀧本 寛
健康福祉部 健康づくり支援課	主 査	磯辺 邦彦
障害福祉課	副 主 査	木川 泰弘
保健指導課	副 主 幹	吉成 浩
高齢者福祉課	副 主 幹	福原 祐子
商工労働部 観光課	副 主 査	茨木浩一郎
企画管理部 教育政策課	副 主 幹	杉山 健一
教育振興部 生涯学習課	副 主 幹	田中 憲生
学校安全保健課	主席指導主事	辰馬 令
指導課	指 導 主 事	飯野 晋二
体育課	課 長	石渡 敏温
ちばアクアラインマラソン準備室	副参事兼室長	由利 聡
同	副 主 幹	角田 康治
学校体育室	主幹兼室長	平島 昭一
同	主席指導主事	牧田 正彦
スポーツ振興室	主幹兼室長	山崎 成夫
体育施設班	班 長	岩沢 謙太
競技力向上班	指導主事兼班長	加藤 俊文
総体準備班	指導主事兼班長	嶋田 武彦
社会体育班	主席指導主事	猪狩 恵司
同	指 導 主 事	山内 和幸
同	指 導 主 事	黒川 昭宏
同	指 導 主 事	長岡 知
同	指 導 主 事	岩倉 貞実

<次 第>

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 千葉県教育委員会教育長挨拶
- 4 議事 (議長：荒川会長)

(1) 報告

- ①ちばアクアラインマラソンの検証結果について
- ②第68回国民体育大会冬季大会の結果について

(2) 審議

- ①「県民の運動・スポーツに関する調査」結果の概要について
- ②第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検・評価について

5 閉会

○教育長より

瀧本と申します。第2回のスポーツ推進審議会の開催に際しまして、それぞれ御多忙の中、お集まりいただきまして御礼申し上げます。また、それぞれの立場で御活躍いただき改めて感謝いたします。

昨年10月にちばアクアラインマラソンの開催に伴い、全国から14000人もの参加をいただき、また、5000人のボランティアの御協力がありました。暑いくらいでしたが、天候に恵まれ、大きな事故もなくマスコミにも大きく取り上げられ、千葉県のPRにもなりました。今日もこのあと検証結果を報告いたしますが、それぞれのお立場で御協力いただき、ありがとうございました。

審議委員である御手洗社長のJリーグ・日立柏レイソルの天皇杯優勝は、たいへんおめでたい話題で、本県のプロスポーツも含めたスポーツの活躍・充実はありがたい。リーグ戦での活躍も期待します。

しかし、残念ながら大阪の高校や柔道の指導者の話題に関しましては、心を痛めているとともに対策を考えております。体罰を根絶すべく動いているが、審議委員のみなさまの御指導御鞭撻をいただければと思います。

もう1点、2020五輪招致の評価チームの来日が重なった。4日間の滞在だが、千葉県としても招致に最大限協力したい。それぞれの立場で御支援いただけたらと思います。

今日は本県の審議会としてアクアラインマラソンの検証結果、いくつかの課題も含めて御報告します。新規事項としてスポーツ推進計画の1年目の点検評価につきまして専門的な立場から御指導賜れば幸いかと存じます。

最後に委員の皆様様の御健勝を祈念して結びといたします。

4 議事（荒川会長）

（1）報告事項

ア ちばアクアラインマラソンの検証結果について（由利室長）

10月21日に開催した「ちばアクアラインマラソン」の実施結果については、前回の審議会で報告させていただいた。

本日は大会終了後実行委員会事務局で行った検証結果について御報告させていただく。

まず 1.（1）開催概要については、前回ご報告したので、資料をご覧くださいことで説明に代えさせていただきます。

（2）成果では、開催趣旨である「スポーツの振興」「千葉県の魅力発信」「地域振興」に加え「経済波及効果」の4つについてまとめた。

「スポーツの振興」では、多くの方々がかかわり「スポーツ立県ちば」の推進に大いに貢献できた、とした。

その理由として、主な成果が5点挙げられる。

① ランナー13,946人、当日のボランティアや地元住民の方々などの運営スタッフ4,483人、さらに沿道などの応援で約31万人がマラソンにかかわり、ス

ポーツを「する」「みる」「ささえる」に取り組む本県のスポーツ振興に大いに貢献することができた。

- ② コース沿道の小中学校の児童・生徒、約5,000人が参加者とふれあいながら応援を行ったことで、子どもたちがマラソンを「みる」「ささえる」楽しみを味わいスポーツへの興味関心が高まった。
- ③ 東京湾アクアラインを走る魅力も相まって、4,628名が初めてのフルマラソンにチャレンジしたことは、スポーツ(マラソン)を始めるきっかけを与えることにつながった。
- ④ 県内の市民マラソン大会から推薦されて出場した参加者が、活躍し好成績を収めたことで大会が盛り上がった。

(出場者の内、男子では2名、女子では4名が入賞)

- ⑤ 参加者の過半数が千葉県内に住所を有する者であり、本県のスポーツ(マラソン)の普及・振興に大きく寄与することができた。

「千葉県の魅力発信」では、

- ① 大会当日、ランナーへの給食の一環として設置した県産品による給食所が好評を得た。更にフィニッシュ地点でも県産品によるおもてなしや販売ブースを展開し、それがマスコミに取り上げられ紹介された。
- ② 大会の様子は、多くの全国紙の一面、テレビの報道によって発信されるとともに、TBS、千葉テレビ、NHK-B Sでは企画番組として、その他のテレビ局でもニュース情報番組として放送され、千葉県のPRに貢献することができた。

メディアによる取材は79媒体、メディア露出は、テレビ44番組、新聞51紙面であった。

「地域振興」では、

- ① 会場の地域住民の方々が、ボランティアとして大会運営に携わったことで、自治会組織など多世代交流による地域としての一体感が醸成され地域振興の一助となった。
- ② 県内各地のご当地キャラクターが応援団を結成し、事前の各イベントにおいて大会の広報を行ったり、当日の沿道応援へ参加したりしたことから、県全体で取り組むイベント感が生まれた。

「経済波及効果」は、

大会開催によるランナー・同行者、沿道応援者などが消費した支出による県内への経済波及効果は15億1,000万円と推計された。

2. 検証では、検証作業は、大会実施に当たって、14の内容を取り出し、事前準備や当日の運営の結果や反省事項をとりまとめ、今後開催する場合の課題及び対策として大きく6点にまとめた。

1点目は、交通管理者である警察やNEXCOをはじめとする道路管理者との検証結果である。今回は、規制による周辺への大きな影響はなかったが、アクアラインを通行止めにし

てから橋上の準備を行うことや、ランナー通過後に撤去して通行止めを解除するまでの業務が綱渡りであった。

来る4月には、圏央道が開通することから、十分な交通規制告知と影響を最小限に抑える必要があることから、「自動車専用道路の交通規制や圏央道との接続に伴う影響について協議が必要であること。」とした。

2点目は、「成果を広げるため開催市以外の地域を取り込んだ展開を模索する必要があること。」とした。経済波及効果の増加や、一層大会を盛り上げるには、広域で取り組む必要がある。

3点目は、「コースを早期に決定し十分な準備期間を確保する必要があること」とした。

アクアライン以外の一般道のコース決定が11月になってしまったため、コース運営の準備が遅くなってしまった。

4点目は、「輸送、駐車場、会場設営等の各種計画を見直す必要があること。」とした。その内容は、途中棄権者の輸送力が大きく不足したこと、会場付近に駐車場が確保できないこと、1万人がフィニッシュするには会場が狭く十分なスペースがとれなかったこと、スタート・フィニッシュ会場が、駅から距離があること、などがその内容である。

5点目「スポーツドリンク及び点滴などの物品、人員が不足したため、再検討が必要であること。」この文面のとおりである。

6点目「気象条件が高温時と低温時の双方を想定して準備を行う必要があること」

当日は、26℃以上の気温となった。道路の照り返しなどを考慮すると30℃以上であった。秋の気候を考慮すると、高温時と低温時両方の気温を想定する必要がある。

以上の実施結果と反省点をまとめたものが、3. 総括となる。

1点目は、「今回の検証では、安全・安心な大会の運営という点でノウハウ・人員・予算運用面で多くの課題があることが明確になった。」とした。

これは、アクアラインを使用することによる影響が広範にわたることや、マラソンコース周辺の閉塞を極力避けることを始めとする様々な要因のために合意形成やコースの確定に予想以上の時間がかかり、それが準備時間の不足に直結した。

また、財源の面では、協賛金中心の運営になることから、最終的な獲得額もさることながら、早期に協賛を確約していただくことが重要であることも判明している。

2点目は、「次回開催を期待する声を多くいただくことができ、「ちばアクアラインマラソン」が魅力のある企画であったことも実証された。」とした。

ランナーアンケート結果のなかで、「次回大会がある場合参加したい」と回答したランナーが85%であったことや、「沿道の応援・イベントが良かった」「アクアラインの上が良い良かった」とする回答が90%を超えていた。

また、地元木更津市の市民アンケートにおいても、イベントの全体評価で84%が肯定

的で、92%が今後の開催を求めている。

次回開催については、当初から、風の影響やアクアラインを6時間にわたり通行止めにする影響等を十分検証・精査した上で、次回開催を判断する、としていた。

25年度に開催する場合、この時期にランナー募集を行う必要があることから、物理的に開催は不可能である。

現在は、これらの検証結果を丁寧に精査しているところであり、併せて、次回開催の可能性を調査しているところである。

次回開催する際には、これら結果を踏まえて、より安全・安心で魅力的な大会となるよう運営に役立てていきたいと考えている。

今後とも皆様の御協力をお願いしたい。以上。

【報告事項（1）ちばアクアラインマラソン実施報告についての質問等】

議長 ・アクアラインマラソンについて報告がありましたが、何か御意見や御質問ございますか。

委員 ・当初、計画では収入5億、支出5億とお話されていたが、このあたりは計画通りだったのですか。

事務局 ・事業を見直しながら経費を圧縮して進めました。結果、支出が経費を上回ることはありませんでした。事業の準備と協賛金を集めるのが同時だったことから、事業を少しずつ圧縮して行い、その結果、ぎりぎり協賛金は集まりました。雨が降ると大変でしたが、何とか赤字にはなりませんでした。

議長 ・次に第68回国民体育大会冬季大会の結果についてお願いします。

イ 第68回国民体育大会冬季大会の結果について（石渡課長）

② 第68回国民体育大会冬季大会の結果について（石渡課長より報告）

事務局 体育課 石渡でございます。

資料2の3ページをお開きください。

次に、第68回国民体育大会冬季大会の結果です。

第68回冬季大会は、スケート競技会が1月27日から31日までの5日間、東京都と福島県で、スキー競技会が2月16日から19日までの4日間、秋田県で開催されました。本県は両競技会に60名の選手団を派遣しております。

入賞した競技ですが、スケート・スピード競技では、成年男子三輪選手の1500m 1位を含む5種目で入賞、ショートトラック競技では本県初の入賞となる成年男子500mで竹原選手が6位に入賞しております。

冬季大会の総合成績は、58点を獲得し、都道府県順位は21位でございます。

参考として、過去3年間の成績、その下には、ライバルとなる都道府県の状況、4ページには、都道府県別総合成績一覧を掲載しております。報告事項は以上です。

【報告事項（2）第68回国民体育大会冬季大会の結果についての質問等】

議長 ・国民体育大会の結果報告がありましたが、何か御意見や御質問ございますか。

(特に、質問や意見等はなし)

審議事項

説明1

(1) 「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」結果の概要について

続きまして、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」結果の概要ですが、平成24年3月に策定した第11次「体育・スポーツ推進計画」は、実行1年目となります。

「本計画」の点検評価に際し、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」を実施しました。

なお、昨年11月の審議会にて、質問項目については、「高齢者がどんな種類の運動をやっているのか」「運動・スポーツに関するニーズについては、スポーツを行っている人に聞く」「文言をわかりやすく適切に」等の御意見をいただき、事務局で検討・修正し、質問項目や選択肢等に反映させ調査を行いました。

また、調査対象では、幼稚園を公立だけではなく、私立も対象としてはどうか、との御意見をいただきましたが、調査依頼を、各教育事務所を通して行ったことから、今回は公立のみの調査とさせていただき、次回以降は、検討することとしました。

それでは、アンケート調査の概要をについて説明させていただきます。

資料3-1 1・2ページを御覧ください。

今回の調査結果は、成人男女、児童生徒、公立幼稚園児の保護者に「運動やスポーツに関するニーズ」や「本計画の進捗状況」を確認する指標等について、全体で、5,500配布し、回収票数4,511、回収率82%でした。

成人は、幼稚園児の保護者も含めて集計をいたしました。

4ページを御覧ください。

次に、調査結果の概要について説明します。

成人の調査から「健康や体力に自信がない」(Q1)と回答した割合は、男性が42.7%、女性が61.8%で、女性の方が割合が高くなっています。全体では、53.9%が「自信がない」と回答しています。

5ページを御覧ください。

次に、Q2では、男性79.5%、女性86.5%、全体で83.7%と、男女ともに「運動不足を実感している」割合が高くなっています。

7ページを御覧ください。

次に、週1回以上のスポーツ実施率(Q4)では、男性48.3%、女性42.5%、全体では、44.8%となっております。

以上の結果から、半数以上が健康・体力への自信がなく、約8割が日頃の運動不足を実感しているという県民の姿が見られます。

一方で、週1回以上、運動・スポーツを実施する割合は、4割程度にとどまっており、半数以上が、運動・スポーツを継続的に実施していない現状が伺えます。

11・12ページを御覧ください。

次に、運動をしなかった理由(Q7)では、男女とも「仕事や家事・育児が忙しくて時間がない」が、第1位です。次いで、「疲れていて体力的余裕がない」「やりたいがきっかけがない」「面倒くさい」等、日常生活において時間的余裕、精神的・身体的余裕がないなど「個人的要因」を挙げています。

少しとびますが、18ページを御覧ください。

次に、「公共スポーツ施設について要望の(Q13)」では「身近に利用できるよう施設数の増加」が24.9%、次いで「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」「利用手続き、料金支払いなどの簡略化」「利用時間帯の拡大」などを挙げています。

24ページを御覧ください。

「スポーツをもっと推進するためには(Q18)」では、「学校体育施設の開放・整備」が、22.9%、次いで「野外スポーツ活動施設の整備」「スポーツ指導者の養成」などが主な要望となっております。このような調査結果から、「身近さ」、「簡略化」、「(柔軟な)時間帯」、「多様なプログラム」「安価な費用(無料)」などが県民のニーズとしてとらえることができます。

25ページには、現状把握として、県民の姿をまとめました。

26ページには、県民のニーズとして、要望等をまとめました。

27ページを御覧ください。

このような、県民の現状やニーズを踏まえ、今後の取り組みの方向性としましては、「運動・スポーツを実施するための支援環境づくりの強化」をなお一層図ることが重要であると考えております。

支援環境につきましては、「情報・場所・機会の提供」とともに、各施策や事業において、県民のニーズに応じた「安価な費用」「身近な施設・場所(アクセシビリティ)」「短時間で多様なプログラムなど(ユーザビリティ)」を向上することで、スポーツ実施率の向上や今後のスポーツの推進につながるものと考えます。

次に、児童生徒の調査結果の概要ですが、時間の都合上、「本計画」の点検・評価に係る指標に設定した質問項目についてのみ説明させていただきます。

29・30ページを御覧ください。

(2) 教科体育の充実を見取る指標を「体育授業を好きと答える割合(Q3)」としました。

24年度は、全体で77.8%でした。

男子の小学5年生では、90.6%、中学2年生で80.9%、
高校2年生で78.1%となっています。

女子では、78.9%、69.9%、69.6%となっており、男女ともに減少傾向が伺えますが、目標の80%に対して、特に、中学女子からの低下傾向が顕著に見られています。

31・32ページを御覧ください。

次に(5)子どもの体力向上に向けた食育の推進では、「朝食欠食率」を指標に設定しました。男子は小学生で3.1%、中学校で5.3%、高校で16.4%となっており、女子では小学生で4.2%、中学校で3.7%、高校で9.2%となっており、男女ともに学年が上がるにつれて、欠食率が上昇する傾向が見られます。

34・35ページを御覧ください。

次に、幼稚園園児の調査結果の概要です。

(1) 幼児期における体力づくりの推進では、「幼児の運動遊び・スポーツを1時間以上実施する割合(Q26)」を指標に設定しております。

平日で29.3%、休日で54.8%

平日、休日をあわせると45.8%となっております。

国の調査では園の活動も含め60%程度ですが、本調査では園での活動を含めていないことから、やや低い数値となっております。

以上、アンケート調査結果の概要です。

【協議事項】

(1) 「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」結果の概要についての質問等

議長 ・ただいまの報告について、まずは質問から。いかがでしょうか。

事前に資料を送っていますので、一読されているかと存じます。

特に、なければ御意見をお願いします。

委員 ・幼児期における体力づくりの推進については、内容を精査し、どんな内容の遊びをしているかを調べ、県として奨励するような遊び(なわとびなど)を公表していただきたい。そうすることで、家庭教育の指針となるのではないかと思います。

委員 ・体育の授業については、「体育の授業が好きですか」の問いだけでは物足りない。体育の中で、運動を学習するということが不足していると思います。

・問6の「運動やスポーツをしたり見たりすることが好きになるきっかけは」の、回答を見ると、体育と運動が一緒になっていて、体育の問題点がつかめていない。今一步踏み込まないと体育授業の実態や改善策が得られないと思います。

・毎回、体力テストの成績を上げるというのも相対的な評価ですし、体力向上だけ

でよいのか、実際、何をやっているのかが見えてこない。

- ・特に、幼児期や低学年では、必要なことを必要な時期に行う、神経系統の発達を促す、もしくは、遊びの中できちんと経験を積んでいるのか。それをもとに学校体育では、運動を学習するべきだと思います。スポーツの「する・みる・ささえる」が体育と一緒にしている。
- ・小学生に聞くと、鉄棒の授業は、体験型になっている。体育は、プロセスが重要なので、このアンケートだけで実態が把握ができるのか疑問に残りました。

事務局・今回は、小5が対象でしたが、今回は、学校の先生に聞くことも考えています。

議長・この調査は5年間実施するそうです。

御覧になった範囲でこうした方がよいなどの意見はありますか。

委員・「体育の授業が好きか、嫌いか」の質問項目が一番大事です。このことに定期的に関われることを考えると、体育授業からスタートするのだと思います。そこが好きでないと先に進まない。好きという子が8割いる。

- ・学校体育は、嫌いだけど、さらにしぼりのないスポーツなら好きということになれば、学校にも問題があるということになる。どちらも好きなら運動好きの子が増えるし、体育の授業もうまくいっていると解釈できる。そのとっかかりとして、Q6は大事な質問項目です。

- ・子どもたちの学校での運動、放課後の活動、部活動、生活全体の中でのスポーツの関わり、部活に入っていない子はダメなのか。帰宅後クラブチームなどで頑張っている子もいるだろうし、そんな質問があってもよいのではないか。

- ・今回の結果を具体的にどう進めたらよいのか。貴重なデータが取れている中で、母親はどんな時間、場所だったら運動できるか、高齢者は、男女では、こんなことを考えていけば、県として運動・スポーツについて色々な発信ができると思う。

議長・スポーツ実施率を千葉県と全国を比較して示してもらえれば、どんなところに力を入れていけばよいかわかると思います。

事務局・国は21年度の調査ですが45.3%、本県は24年度のデータで44.8%のスポーツ実施率です。国は現在、65%を目標とし、県は60%としています。現状は44.8%でまずは60%達成を目指し、その後新たな数値を検討したい。

委員・県内の障害者がどう考えているか、この調査では数字には出ないだろうと思っていたが、参考資料に公共スポーツ施設に関して少し載っていた（施設の利用者数）。千葉県は他府県に比べて利用できる施設が少ない。使える人も限られている。

- ・車椅子陸上は、天台のスポーツセンターは使えません。スポーツ科学センターにトレーニング機器を置かせてもらおうとしたが「私物はお断りしている」というのが現状で、利用可能な横浜に行くことになってしまう。何が足りないのかを調査から模索していければと思います。

- ・また、ナイター設備のある競技場がないので、利用できる時間は、18:30が一番遅い。東京都の江戸川や夢の島では、21:00までで、仕事が終わってからも利用できる。運動する時間が無いという方にとっては、こうした施設があると、運動する機会が増えるのではないか。節電もわかるが、時間帯も考えていただきたい。

事務局・考えてないわけではないが、住民問題もある。今後の参考にいたします。

議長 ・ほかには？

委員 ・スポーツは、心・技・体が大事です。心を養うこと、指導者やいじめの問題も心の問題だ。それがわかるアンケートができないか。また、スポーツが嫌いな方もいるので、そのような人がどう関わっていけるかが、わかるようなアンケートをしていただきたい。

議長 ・具体的には？

委員 ・「勝ち負けにこだわっているか」「安全に対する配慮」など〇×式ではなく、自分の感想が書けるようなものが望ましい。できる子を伸ばすのではなく幼児教育としては、底辺を押し上げていけるような、スポーツのできない子に対する配慮のあるアンケートを作成してほしい。

事務局・指導者へのアンケートなど、次年度の会議で御意見をお願いいたします。

議長 ・これらの意見を踏まえて、事務局は、今回の調査や項目等を精査してください。

事務局・わかりました。

説明 2

(2) 第11次「体育・スポーツ推進計画」の点検・評価について

議長 ・次に、第11次スポーツ推進計画についてお願いします。

次に、第11次「体育・スポーツ推進計画」の点検・評価について、御説明いたします。

資料3-2の1ページを御覧ください。

5つの柱についての指標と今年度の目標の達成状況の一覧です。指標の中には、「本県の体力・運動能力調査」や、先程の「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」結果を用いるものもあります。この後2ページから16ページに5つの柱毎に、各施策の指標や現況を明らかにするとともに、課題を分析し、今後の取組についての方向性を検討しました。

なお、昨年11月の審議会にていただいた、「介護予防トレーニングセンターの利用状況」に加え「何をもって推進できたか」の視点で指標設定をという御意見については、60歳以上の「総合型クラブの会員数」と「スポーツ実施率」を指標としました。

また、障害のある人のスポーツの推進では、「障害のある人のスポーツ実施率」の把握や「障害のある人が利用できる施設設備の整備」についての御意見をいただきましたが、今後、研究・検討してまいります。

「スポーツ実施率」については、食習慣を加えた生活の中で見ていく必要があるとの御意見もいただきましたが、このことについては、引き続き御意見をいただければと思います。

それでは、2ページを御覧ください。

柱1 生涯スポーツの推進では、

「する・みる・ささえるスポーツを通して、元気と活力ある県民を増やす。」という目標を掲げ、「成人のスポーツ実施率」を指標とし、目標値を60%としました。

24年度の調査結果では、44.8%でした。

3 ページを御覧ください。

- (1) 健康・体力づくりを意識したスポーツ活動の推進では、
各世代別のスポーツ実施率を指標としました。

20～30歳代の目標値を 50%とし、今年度は 36.8%

40～50歳代は60%とし、 38.3% でした。

60歳以上は75%とし、 74.9% でした。

- (2) 高齢者のスポーツ推進では、

介護予防の拠点施設の利用者数と総合型クラブ会員のうち、60歳以上の会員数を
指標とし、それぞれ経年増加を目標としました。

25年1月現在の施設利用者数は、29,967人でした。

クラブ会員数は、5,746人で、全体の会員数の32.3%でした。

また、60歳以上の方のスポーツ実施率を指標とし、目標値は75%で、

24年度は74.9%でした。

- (3) 障害のある人のスポーツ推進では、

スポーツ・レクレーション活動の拠点施設の利用者数を指標とし、25年1月現在
で、43,130人でした。

また、県の初級障害者スポーツ指導員の養成講習会の参加者数を指標とし、第4次
千葉県障害者計画においては、26年度までの目標値を200人に設定しています。

24年度の累計数は、282人でした。

次回、県障害者計画の策定に併せ、整合性を図りながら、数値目標を設定して
まいります。

4 ページを御覧ください。

柱1を総括しますと、23年度の県民の世論調査では、36.8%であったスポー
ツ実施率が、今回実施した「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」結果で
は、44.8%でした。この点検・評価では、このアンケート調査結果を指標として
いきたいと考えています。

今後は、20歳～50歳代の働き盛りの方々や子育て世代のスポーツ実施率が低い
ことを踏まえ、目標値の60%を目指し、各施策の事業を推進していきます。

5 ページを御覧ください。

柱2 子どもの体力向上と体育の充実では、

自らすすんで運動に親しむ幼児、児童生徒を育成する体育の推進という目標を踏まえ、
小学生における新体力テスト平均点を指標とし、目標値を50点としました。

24年度に実施した調査では、49.7点でした。

6 ページを御覧ください。

- (1) 幼児期における体力づくりの推進では、

アンケート調査における幼児の「家庭での外遊びを1時間以上実施する割合」を指

標とし、目標値は、全体で60%とし、

24年度は、平日29.2%、休日54.8%、全体45.8%でした。

- (2) 教科体育の充実における指標は、アンケート調査における、体育授業が「好き」と答える割合とし、目標値を80%とし、24年度は77.9%でした。
- (3) 児童生徒の体力の向上における指標は、小学5、6年生、中・高校生の新体力テストの合計点がA段階の児童生徒の割合としました。目標値を30%とし、24年度は25.9%でした。
- (4) 運動部活動の充実における指標は、中・高校生の運動部活動への加入率とし、目標値を中学校70%、高校45%とし、
24年度は、(中学校)65.4%、(高校)41.3%でした。
- (5) 子どもの体力向上に向けた食育の推進における指標は、朝食欠食率とし、小・中学校につきましては、全県の児童生徒を対象とした「平成24年度千葉県学校給食実施状況等調査」の結果を基にし、24年度は、小学校5年生が2.0%、中学2年生が4.0%でした。この調査では、高校2年生のデータがないことから、高校2年生については、今回実施したアンケート調査結果を基にし、24年度は、13.0%の欠食率となりました。目標値は、小・中・高ともに0%としました。

7ページを御覧ください。

柱2を総括しますと、23年度は、49.3点でしたが、24年度は49.7点となり、順調な増加傾向が見られています。

今後は「体育授業が好き」と答える割合が中学女子から顕著に低下傾向になることを踏まえ、体育・スポーツの充実をはかります。

8ページを御覧ください。

柱3 競技力の向上では、

国民体育大会の成績と未来のアスリートの発掘・育成・強化を目標に掲げ、国体における都道府県対抗順位を指標とし、目標値は8位以内としました。

24年度は、7位でした。

9ページを御覧ください。

- (1) 選手の育成・強化、指導者の養成・確保では、国体における少年種別順位とし、目標値は4位、24年度は、6位でした。
- (2) 競技力向上のための環境整備では、27年度までの整備計画における競技用具整備の実績・状況の達成度とし、目標値を27年度までの達成度を100%とし、24年度は、42.7%です。
- (3) スポーツ医・科学の積極的な活用では、「活用団体数」を指標とし、目標値は、39全ての団体とし、24年度は、20団体でした。
- (4) 組織・調査では、国や他県の強化方策などの研究・視察の実績を指標とし、実績・状況から判断することとし、24年度は、県内会議、県外視察等を行いました。

10ページを御覧ください。

柱3の総括をしますと、男女総合で7位となり、この結果は6年連続入賞を果たし、千葉国体の成果が一過性に終わることなく、着実に根付き始めていると捉えています。

今後は、国体での8位以内入賞と未来のアスリートの発掘・育成・強化を行うに当たり、競技力向上推進本部事業の充実を図ることにより、本県の競技力が恒常的にレベルアップすることを目指します。

また、この中で育った選手や指導者を人的資源として地域スポーツの推進に還元するよう努めるとともに、本県ゆかりのアスリートが国際大会や全国大会で活躍する姿を多くの県民に知っていただくために広報活動の充実を目指します。

続きまして、11ページを御覧ください。

柱4 スポーツ環境の整備では、

県民のスポーツに親しむ機会の選択幅を広げることを目標とし、スポーツ環境を「ヒトづくり」、「ハード面」、「ソフト面」の視点から捉え、スポーツ環境の整備をめざしています。総合型クラブの創設等には、スポーツ環境が総合的に整備される必要性があることから、指標として総合型クラブの会員数を設定しました。

23年度は、54市町村に31市町、66クラブ、15,677人でしたが、

24年度は32市町、68クラブ、17,801人となりました。

12ページを御覧ください。

(1) 人づくりの推進では、県で養成した公認スポーツ指導者の登録者数とし、目標値は1,000名、24年度は、752名となりました。

(2) 施設の再整備と有効活用では、県立体育施設の年間利用者数と県立学校体育施設開放率を指標とし、目標値は経年増加です。

25年1月現在で、総合スポーツセンターと国際総合水泳場合計利用者数は、

1,263,052人となっています

また、県立学校体育施設開放率は、60.4%でした。

※(県民の5人に1人が利用しているということになります。)

(3) システムづくりの推進では、総合型クラブ設置率と総合型クラブの認知度を指標とし、目標値は、総合型クラブ設置率78%(24年7月現在全国平均設置率)、クラブの認知度、30%を目標値としました。

24年度は、59.3%で、認知度は10.2%でした。

13ページを御覧ください。

柱4の総括ですが、24年度は32市町の1増、71クラブの5増、17,801人で、2,124人増加したことから「概ね順調にすすんでいる」と評価しています。

今後、県民のニーズ(安・近・短・多)を踏まえ、未育成市町村への啓発活動を計画的、継続的に実施していきます。

14ページを御覧ください。

柱5 スポーツを活用した地域の活力づくりですが、

スポーツと地域の特性を活かした千葉の魅力発信という目標を掲げ、取組が「する、みる、ささえるスポーツ」の推進へつながることから、「県内各地で開催されるスポーツ行事・イベントへの参画意欲の割合」を指標としました。目標値を70%とし、24年度はアンケート調査より、65.1%で、「するスポーツ」が10%、「みるスポーツ」が49.7%、「ささえるスポーツ」は5.4%でした。

15ページを御覧ください。(各施策の指標ですが、)

(1) プロスポーツを活用したスポーツの推進では、プロスポーツの関心度を指標とし、目標値を、70%を経年増加としました。

24年度はアンケート調査より、58.3%でした。

(2) 豊かな自然を活かしたスポーツイベントの活用による千葉の魅力発信では、スポーツ大会・イベント情報提供への満足度で『十分である』『まあ十分である』と答える割合を指標とし、目標値を、30%に設定し、24年度は、21.4%でした。

(3) 国体開催を契機としたスポーツの拠点づくりでは、地元開催大会の必要性で「おおいに必要」「まあ必要」と答える割合を指標とし、目標値は、経年増加とし、24年度は、72%でした。

16ページを御覧ください。

柱5 (スポーツを活用した地域の活力づくり) の総括ですが、

県内各地で開催されるスポーツ大会・イベントへ参画意欲の割合は、24年度、65.1%でした。

「するスポーツ」(10.0%)「みるスポーツ」(49.7%)「ささえるスポーツ」(5.4%)への参画意欲が見られました。

今後は、この指標を基に、「する・みる・ささえるスポーツ」への主体的な意欲を高め、各事業を推進していきます。

以上、5つの基本施策の総括について、説明をさせていただきました。

各施策の指標の設定や、その達成状況、今後の方向性等についての御意見や御審議のほど、よろしくお願いいたします。

【協議事項】

(2) 第11次「体育・スポーツ推進計画」の点検・評価について

議長 ・只今の説明について、先ずは、質問から、いかがでしょうか。

委員 ・競技力向上班が中心になってスポーツ選手医科学サポート事業をされているのですか。

事務局・委託部分が大きい。医学的な相談、スポーツドクターやトレーナーを練習や国体に帯同、国体選手の事前のメディカルチェックを主に行っています。

- 委員 ・ 9 ページに関しては、医学的なことでは、ちばアクアラインマラソン等でも大変だったと思います。これからも選手を応援する事業を行っていただきたい。
- 委員 ・ 競技施設整備状況を 42% から 100% にするということですが、暮れにも体育課の方とメールのやりとりをさせていただいたが、東庄町のボートの事件など最新の設備・用具が必要だと思えます。是非 100% を達成してほしい。
- 委員 ・ もうひとつ気になるのは、「人づくりの推進」です。ものがあればいいということではない。指導者の数が現在 752 名で、指標は 1,000 名を目指しているがそれで足りるのか。
- 委員 ・ ボートの件でいうと、転覆するのはやむを得ないし安全考慮もしているだろうが、指導者を増やす必要があると思えます。私の幼稚園でも担任の先生一人でもいいのかという話が出ている。専門家でも一人ではダメだ。複数で見ないと安全は守れない。
- 委員 ・ 指標を 2,000 名くらいの意気込みで取り組みが必要だ。最終的には、人づくりですから指導者養成に力を入れていくというような体育・スポーツの推進であってほしいと思えます。
- 委員 ・ 公認スポーツ指導者というのは県主導です。他に、日本体育協会もあります。
- 委員 ・ 細かいことはよくわかりませんが、こうであってほしいなと思えます。
- 議長 ・ 他には、ございませんか。
- 委員 ・ 以前、県でスポーツプログラマーを養成していたが今はどうなっていますか。
- 事務局 ・ スポーツプログラマーの養成は終了しました。現在は、社会体育公認指導員、スポーツリーダーの養成を行っています。
- 委員 ・ 参加者が少なくなったからか、予算の問題なのでしょうか。
- 事務局 ・ 参加者が少なくなってきたことは事実です。
- 事務局 ・ 無料でやっていたのですが。
- 議長 ・ 他には、ございませんか
- 委員 ・ 4 のスポーツ環境の整備で総合型地域スポーツクラブの認知度 10% とは、非常に低いと思います。これは国が鳴り物入りで 11~2 年経つのに、54 市町村で 32 クラブ、設置率もまだ 59%。1 市町村に 1 クラブが国の目標だった。10 年で達成するはずが、この状況では低すぎるのではないかと。
- 委員 ・ できるところは多くできるが、できないところはなかなかできない。資料を見ても空白の所が目立ち、もっと努力してもらいたい。
- 事務局 ・ 新たにリーフレットを来年度作り替えるなど、設立に感触のある市町に積極的に訪問をしていきます。
- 委員 ・ 今回の指標でここが一番弱い。総合型クラブはできないところはいくらやってもできない。是非、お願いします。
- 委員 ・ 私も総合型クラブ設立に関わっており、感じることもある。学校に協力依頼に伺っても先生方にはほとんど知られていない。私たちが校長先生にレクチャーするのはおかしいことなのではないか。よくて聞いたことがある程度の反応です。小学校など、まず手近なところから浸透させていく必要があると思えます。
- 議長 ・ 他には、いかがでしょうか。この計画は、これから進めていくわけで、今後の方

向性、目標値が出されているが、各項目について、何か御意見ありますか。今日2つの提案がありました。全体をとおしてありますか。

事務局・本日欠席の柳川委員から3点、御意見をいただいています。

- ・1点は、生涯スポーツの推進ですが、「どのような方が介護予防トレーニングセンターにお見えになっているのか。利用者数を増やす、総合型クラブの活用を促すということを考えると吟味する必要があるのでは。」と意見をいただいた。しかし、本日担当者が欠席しているため、次回までに方向性をだせればと思います。また、「逆に指標では高齢者の実施率が高いがその数値ではなく、そうではない数値の方の実施率をあげるという考え方もあるのでは。」との指摘もいただいております。取組の仕方に工夫が必要と事務局でも考えています。

事務局・子どもの体力向上と体育の充実という点でも意見をいただいています。

事務局・「子どものスポーツ環境は、運動部に限らない。運動部活動の充実と並行して地域のクラブやチームに加入している子どもの指標も取り上げたらどうか。」ということです。検討していきます。

事務局・もう一点。柱5の地域の活力づくりということで、「アウトドアをいかしたスポーツイベント増加、参加したりささえたり、体験していただける方の調査をしてはどうか」という意見。また、「“豊かな自然を生かしたスポーツの推進”を2の指標にしてはどうか。」ということで、アウトドア環境の整備、アウトドアスポーツに取り組む人口を増やすことを目標にしてはどうかという意見ですが、調査する手立てが難しいのが現況で検討しているところです。以上が柳川委員さんからの御意見でした。

委員・確かに運動部活所属以外にもサッカーに多いが、地域クラブチームで運動に取り組んでいる子、また、柳川委員の言うアウトドアスポーツに関してもどうとらえるか、難しいけれど検討していただきたい。

事務局・はい。

議長・それでは、今日の提案の事柄を事務局が取りまとめて、点検評価報告書の案を作ってください。これについては、事務局に一任してよろしいか。報告書に関しての意見は、後日、改めて聞きます。

事務局・報告書は、最終的に初年度の計画実行内容としてHPに公開します。

議長・今日の提案以外に何かありますか。事務局から連絡がありますか。

事務局・今後の予定です。報告案を作成し、各委員さんに送付し、コメントをいただいてHPに公開します。併せて、会議録の確認もお願いします。

- ・25年度は、6月に1回目の審議会を予定しております。アンケート調査や項目等への意見を踏まえまして提案させていただきます。
- ・25年度の事業につきましても、方向性をお示しできればと思います。アンケートについても御意見をいただき11月には実施を考えています。いただいた御意見を踏まえ、調査内容や項目等を検討した上で調査を実施する予定です。よろしく願いいたします。

議長・以上で、議長の任を解かせていただきます。